Warsteiner、Warsteinの主力醸造所で約125人を削減

Warsteinerは合意に基づき、2026年までにWarstein拠点の従業員を600人に縮小。ノルトライン＝ヴェストファーレン州で生産を集約する

2026年11月11日（水）



Warsteiner Braugruppeは11月10日火曜日、Warsteinの主力醸造所で約125人を削減することで従業員代表と合意し、交渉を終えたと発表した。ノルトライン＝ヴェストファーレン州でグループの生産拠点を縮小する再編が、さらに進むことになる。

同社によると、この合意により、ザウアーラント地方にある本社所在地Warsteinの従業員数を2026年末までに600人に減らす。最高経営責任者（CEO）のBodo-Joachim Wendenburgは、交渉の結果は会社の将来にとって重要な条件だったと述べた。

同社によると、Warsteinで削減するポストの約3分の1は、退職と有期契約の満了によってなくなる

見込みだ。こうした対応で必要な削減数に届かない場合に備え、労使双方は利害調整と社会計画についても合意した。これはドイツで、雇用削減や支援策に対応するために一般的に用いられる仕組みだ。

Warsteinでの削減は、同州における醸造事業全体の再編の一環だ。グループは2026年後半、Herfordの醸造所をすでに閉鎖し、約100人に影響が及んだ。また5月には、従業員100人超を抱えるPaderbornの醸造所から撤退することも発表した。Warsteinerは、Paderbornでは引き続き売却を目指すとしている。2026年末までに買い手が見つからなければ、同拠点の操業も停止し、関連する雇用も失われる。

ntv/dpaの報道によると、WarsteinとHerfordでの施策に、今後が未定のPaderbornを合わせると、330人超に影響が及ぶ。同報道によると、同社はノルトライン＝ヴェストファーレン州でのビール生産をWarsteinに集約している。HerforderとPaderbornerの生産はWarstein拠点に移され、同拠点の設備をより有効に活用する狙いだ。

今回の再編は、需要の軟化を受け、生産能力の調整を迫られるドイツの醸造各社が直面する圧力も示している。飲料業界にとっては、販売量の落ち込みに対し、特に同じ地域のネットワーク内で複数の醸造所を運営する企業が、生産の集約や工場閉鎖、人員削減で対応する可能性を示す新たな事例となる。

創業家にちなんだHaus Cramer Gruppeの名で事業を展開するWarsteinerは、長年にわたりドイツを代表するビールメーカーの一つとして知られてきた。今回の変更は、生産を本拠地に戻しながら、長期的な事業基盤の維持を目指す同社にとって、大きな転換点となる。